知られている。本種は関東地方においては奥日光が産地として有名であるが，他では東京都下奥多摩日原での１♀の記録がある* のみにすぎなく，その後は都下奥多摩の御岳山で1971年，郷直樹氏により路上を歩行中の１♂１♀が採集されていると聞く。筆者は同じく御岳山にて友人と計14頭の本種を採集したが，その際に非常に興味深い観察をしているので報告しておきたい。

筆者らは1973年から1975年までの３年間にわたって御岳山において本種を採集・観察したが，同地における本種はすべて直径２ｍほどの巨大なケヤキに飛来した。オニホソコバネの飛来するケヤキはただ１本で，ケーブルカー山頂駅と御岳神社の中間にある“神代ケヤキ”と呼ばれている巨木である。このケヤキには地上３ｍほどのところに，おそらく台風で太い枝が折られたと思われるところがあり，その付け根にあたるところの，材質が腐蝕しているような部分にオニホソコバネは飛来した。この木の周辺で枝先などを飛び回っている個体もよく見られるが，最終的にはその部分にやってくるようであった。

ここで興味深いのは，このケヤキにオニホソコバネのやってくる時間が早朝６：00から７：00の間に限られること，および採集された個体のすべてが♂であったことである。早朝のみに限って飛来することは，今までこのような観察がされなかった一因とも考えられるが，飛来してきた個体のすべて（ただし，他にも多くの個体を目撃しているが，それらの性別はわからない）が♂であったことはなんとも説明がつきにくい。奥日光大沢ではクワの古木の仮死部に本種♀が止り，産卵と思われる行動をしているものを見ることができるが，この場合は♀に限られ，♂はクワの葉上に静止しているか，または付近を飛び回っているのである。もしオニホソコバネがケヤキをも食害するとすれば（そのために飛来しているとすれば）♀ばかりならともかく，すべて♂というのは合点がいかない。

以上，まだオニホソコバネがケヤキを食するかどうかの結論はでないが，可能性は充分にあるのではないかと推察される。今までオニホソコバネといえば，クワというイメージがあまりにも強かったが，今後，ケヤキにも目をむけ，新しい生態が確認されることを期待したい。

採集記録

２♂♂，1.Ⅶ.1973，樋村慎一・小沼孝行採集

８♂♂，1.Ⅶ.1974，加藤源喜・小沼孝行・鈴木恭一採集

１♂，3.Ⅶ.1974，小沼孝行採集

３♂♂，31.Ⅶ.1975，加藤源喜・鈴木恭一採集

*）昆野安彦(1971)，月刊むし９号，p.33

（〒180　武蔵野市吉祥寺東町3-10-13）

宮古島でツヤケシヒゲナガコバネカミキリを採集

斎藤　秀生

ツヤケシヒゲナガコバネカミキリ *Molorchoepania mizoguchii* (HAYASHI) は伊豆諸島新島・九州・屋久島・奄美大島・徳之島・沖縄本島・石垣島・西表島・与那国島からすでに記録されているが，宮古島における報告は聞かない。

筆者は1975年春，同島を訪れた際に枯づるのビーティングにて本種を採集しているので報告しておく。

１♂，12.Ⅳ.1975，宮古島友利，斉藤秀生採集　藤田宏保管

なお，この個体は4.5mm とかなり小型のものであった。

（〒154　世田谷区弦巻4-2-17　くるみ荘30号）

竹富島のカミキリ

矢野　立志

1974年４月16日，八重山群島竹富島に採集に行く機会があり，計13種のカミキリを採集することができた。今まで同島へ訪れたカミキリ屋はほとんどないようで，カミキリの記録は特産亜種になっているアトモンチビをはじめ，ニッポンモモブトコバネ（ssp. *iriomotensis*）・ムネモンアカネトラ・モモブトトゲバ等が知られている程度であった。

1. ヒゲナガヒメカミキリ
   Ceresium longicorne PIC，１♂，３♀♀
2. リュウキュウヒメカミキリ
   Ceresium fuscum shirakii HAYASHI, 2exs.
3. ニセフトガタヒメカミキリ
   Ceresium pseudounicolor KUSAMA et KOMIYA, 2exs.
4. イシガキゴマフカミキリ
   Mesosa cervinopicta (FAIRMAIRE), １♂
5. サキシマウスアヤカミキリ
   Bumetopia japonica ishigaki HAYASHI, １♂
6. ヨスジシラホシサビカミキリ
   Apomecyna historio (FABRICIUS), 6exs.
7. アヤモンチビカミキリ
   Sybra ordinata flavostriata HAYASHI, 11exs.
8. アトモンチビカミキリ
   Sybra baculina carinatipennis BREUNING et CHUJO, 8exs.

9. タイワンチビカミキリ
Sybra pascoei ishigakii BREUNING et OHBAYASHI, 7exs.
10. ハヤシサビカミキリ
Ropica hayashii BREUNING, 6exs.
11. タテスジドウボソカミキリ
Pothyne albolineata MATSUSHITA, 2exs.
12. イシガキシロオビサビカミキリ
Pterolophia kaleea (BATES), 1ex.
13. コゲチャサビカミキリ
Mimectatina meridiana (MATSUSHITA), 1ex.

編集部注) 4. のイシガキゴマフカミキリは *M. yonaguni subkonoi* BREUNING のことである（本誌 P. 19~23参照）.

(〠734 広島市皆実町1-18-40)

三宅島でも採集されたツマグロアメイロカミキリ

藤田　宏

先に，中村俊彦氏[1]より伊豆諸島御蔵島におけるツマグロアメイロカミキリ *Pseudiphra apicale*(SCHWARZER) の採集例が発表されたが，筆者は三宅島にて本種を採集しているので報告しておく。

1♀，三宅島大路池，29. VII. 1975，熊谷優一採集
1♀，　同　上　，30. VII. 1975，藤田宏採集
2頭共，大路池周辺のスイーピングによる。

三宅島で採集された個体は沖縄本島産のものと比較して，特に区別するほどの差異はなく同じ種と思われる。また，台湾産の本種とも比較したが顕著な差は見られなかった。ただ，台湾産の個体においては，上翅基部⅔の明るい橙色の部分が，橙色から黒化したものまでさまざまな色彩変異が見られるのに対し，今まで本邦から得られている本種の上翅はすべて橙色の型ばかりで，黒化したもの，あるいは黒化の傾向を示す個体は1頭もなかった[2]。台湾においてはむしろ黒化型の方が多く[3]，また，他の日本産の *Pseudiphra*,—*P. bicolor*, *P. obsucura*, *P.* sp.（八重山諸島産）等が同一産地内で相当色彩変異に富むのに対し，本邦産の本種のみが色彩的にまったく安定しているのは面白い。今後，本邦から黒化型のツマグロアメイロが採集されるかどうかは興味深いところである。

なお，採集地の大路池(たいろいけ)付近は，植生の貧弱な三宅島にあって新澪池付近と同じくシイのよく繁った原生林であるためか，キマダラ・トラフホソバネ・ミクラチビなど島内において同地でなければ得にくい種も多く，これからの調査が期待される。

1) 中村俊彦(1975)：伊豆御蔵島産の興味あるカミキリ2種，甲虫ニュース Nos. 29・30, p.7



2) 筆者の検した本邦産のツマグロアメイロは御蔵島産2頭，三宅島産2頭，沖縄本島産20数頭。
3) 筆者の調べた範囲では黒35：橙7であった。

(〠110　台東区台東2-29-6)

編集後記

○今号より ELYTRA は“第2化？”に入ったのですが，いかがでしょうか？…………御意見・御批判をお待ちしております。

不慣れなため，この号の編集には3ヵ月以上もかかってしまい，会員諸兄には大変御迷惑をおかけしました。しかし，後続の「さやばね No. 2」および「ELYTRA Vol. 4 No. 1」の原稿はすでに全部揃っており，あとは編集業務と印刷工程を経るのみですので，6月までには2冊続けて発行し，今までの遅れを一挙にとりもどすことができるのです。（ホントに）　　（藤田　宏）

ELYTRA Vol. 3, Nos. 1/2

昭和51年5月20日　印刷
昭和51年5月25日　発行
編集者　高桑正敏
　　　　藤田　宏
発行者　草間慶一
発行所　日本鞘翅目学会
Japanese Society of Coleopterology
東京都台東区東上野4-26-8
福田惣一方（〠110）
c/o, FUKUDA, 4-26-8, Higashi-Ueno, Taitō-ku, Tōkyō-city, Japan
印　刷　㈱大和印刷